

# 子どもたちの安心・安全を守ろう

～地域住民と共に、子どもたちの登下校の安全を見守るPTA活動～

美祢市立城原小学校 PTA

## 1 学校・地域の概要



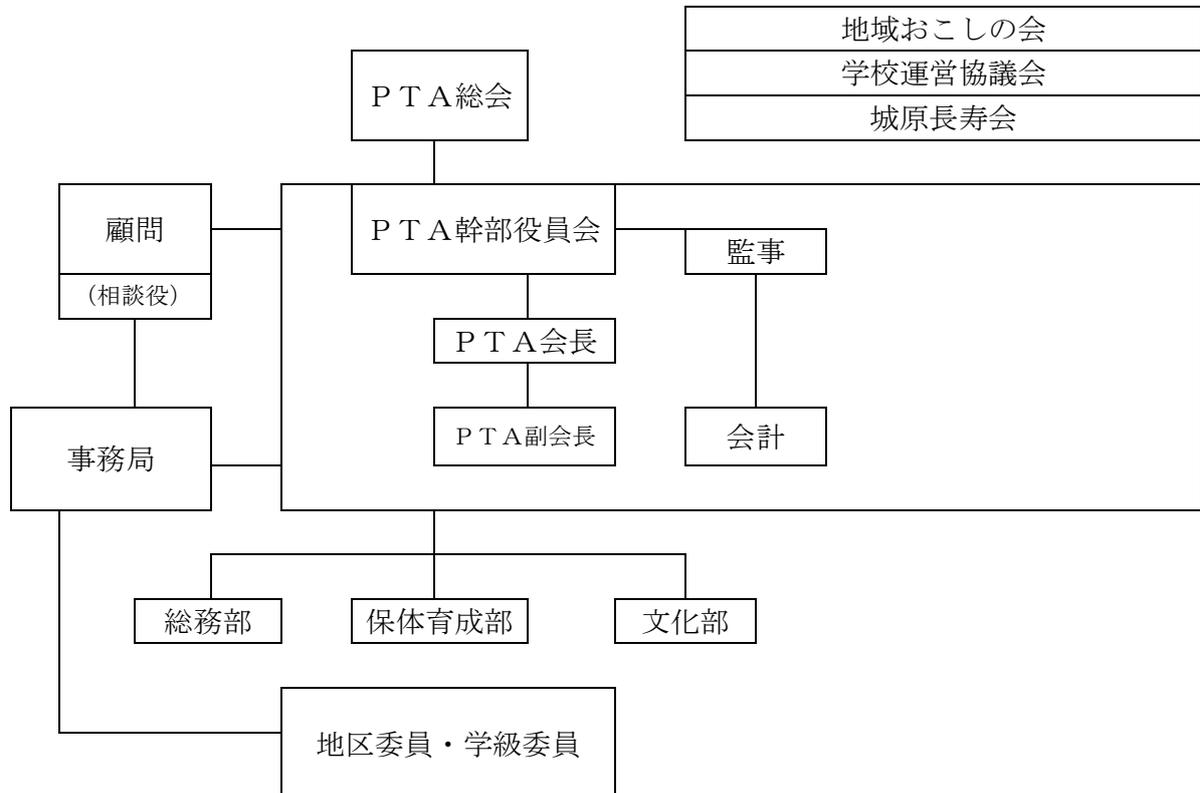
明治5年に創立された本校は、当時、美祢郡唯一の学校として開校し、市内で最も歴史のある学校として多くの卒業生を輩出してきた。

校区を含む大嶺町は、美祢市のほぼ中央に位置し、本校区は大嶺町の南西部にあたる。校区の中央部を厚狭川が南流し、沿うように県道とJR美祢線が走っている。沿線周辺地域はわずかに田が広がる農山村である。

学校のある四郎ヶ原地区は、江戸時代から長府・萩間を結ぶ幹線の宿場町として栄え、また美豊炭坑隆盛の時代もあったが、昭和36(1961)年の閉山とともに人口は急減した。現在では再び静かな農村風景を取り戻し、学校周辺にはわずかながらも昔の宿場町としての風景を残している。現在の全校児童数は21名(家庭数16)である。

旧街道沿いには、「吉田松陰投宿の碑」と「諸隊(庸懲隊)宿陣跡」の標柱があり、幕末から維新にかけての歴史も刻まれている。

## 2 PTA組織図



### 3 研究テーマについて

本校では、約10年前までは、毎朝の登校時に子どもたちの安全を見守る地域の取組みがあった。しかし、その活動は次第に縮小し、ここ数年は完全に消滅しており、そのような活動の記憶も忘れ去られていた。近年、児童の登下校中でのサルの出没報告が多発していた中、今年に入りその数が激増した。周辺地域では、夜間は猪や鹿も頻繁に出没する地域に加え、7月には熊の出没も確認されている。害獣の頻繁な出没に加え、特に登校時は交通量が多いことから児童の登校の安全確保が喫緊の課題として取り上げられた。しかし、児童数21名、世帯数16と小規模校なため、教員とPTAだけでは包括的な安全確保が困難なことから、地域ぐるみの活動として、拡大学校運営協議会（PTAと学校運営協議会委員で組織）学校安心・安全部を中心に、地域住民へも協力要請を行い、地域ぐるみで登下校時の見守り活動を開始した。

6月の学校運営協議会で学校安心・安全部会推進部の活動計画をまとめ、9月には全体の場（学校運営協議会・PTA）で提案し、さらに、学校安心・安全部推進部会を行い、地域にお願い文書を配布、さらにまちcomiメールを配信し10月7日（金）よりスタートさせた。

### 4 活動内容

#### (1) 拡大学校運営協議会の取組

##### ① 事前会議7月29日（金）

参加者：学校運営協議会会長・PTA会長・PTA総務部長・校長・教頭  
PTA会長提案資料

## 児童の安全を確保するために

以下の企画はあくまで会長の私案です。たたき台にして皆様の議論を通して素案作成したいと考えています。

### 【課題】

- ①通学路が幹線道路のため登校時の交通量が多い。
- ②南大嶺駅から小学校まで約2km?と比較的遠方からの通学児童が多い。
- ③通学路に猿・猪・鹿が確認されており、特にここ数年通学路に猿の群れが頻繁に現われるなど危険が指摘されている。
- ④トンネル区間・民家のない区間が大半であり、トラブルがあった場合に、駆け込む場所がない。
- ⑤列を離れて車道に飛び出す児童がいるなど統制が取れておらず、全体の安全が確保されていない。

以上の①～⑤の課題から、城原小学校や地域の実情に応じた a 安全管理体制の整備、b 施設設備の整備、c 教職員の危機管理意識の向上、d 子どもの安全を地域全体で見守る体制と情報共有の整備、それらを組織的、実践的かつ継続的な安全管理体制の構築が必要である。

→以上の課題に対して、大きく2つに分けて対策を考える。

### 【対策①—組織体制・基礎対応】

組織的・実践的・継続的な安全管理体制の構築

組織：PTA・教員・学校運営協議会・地域(?)・警察・消防・行政

実践：組織毎の役割分担を明確にし、マネジメントをどの様にするかを決めておく。  
継続：しっかりと組織体制を作り、組織毎に明確な目的を周知することが継続に繋がる。

基礎調査：警備ポイントの把握・確認。モデル地域などの情報収集、視察。

基礎対応：危険察知・回避能力の向上。

### 【対策②－実践】

#### ①②交通災害からの安全確保

警察に通学路であることの標識の設置など出来ないか陳情&情報共有。

消防団に登校時の見廻りを依頼。

バス通学再開、スクールバスの検討、山道復活などの検討。

スクールガード（安全ボランティア）の組織。情報共有のしくみ化。

#### ③害獣からの安全確保

生態を知り、対処力向上のための講習。防護できるグッズの購入。

防犯ブザーなどの定期検査。

スクールガード（安全ボランティア）の組織。情報共有のしくみ化。

#### ④犯罪・トラブルからの安全確保

スクールガード（安全ボランティア）の組織。情報共有のしくみ化。

連絡体制・位置情報共有化のしくみ化。

防犯カメラの設置などが可能か行政・警察に相談。また、そのカメラ情報を学校・家庭でリアルタイムで見られるものなのか相談。

#### ⑤集団管理による安全確保

児童の役割明確化。

通学路での課題を共有するしくみづくりと対策・指導組織の決定。

学校・家庭教育による安全指導。

スクールガード（安全ボランティア）の組織。情報共有のしくみ化。

組織：PTA・教員・学校運営協議会・地域（？）・警察・消防・行政

実践：組織毎の役割分担を明確にし、マネジメントをどの様にするかを決めておく。

継続：しっかりと組織体制を作り、組織毎に明確な目的を周知することが継続に繋がる。

基礎調査：警備ポイントの把握・確認。モデル地域などの情報収集、視察。

基礎対応：危険察知・回避能力の向上。

### 【対策②－実践】

#### ①②交通災害からの安全確保

警察に通学路であることの標識の設置など出来ないか陳情&情報共有。

消防団に登校時の見廻りを依頼。

バス通学再開、スクールバスの検討、山道復活などの検討。

スクールガード（安全ボランティア）の組織。情報共有のしくみ化。

③害獣からの安全確保

生態を知り、対処力向上のための講習。防護できるグッズの購入。  
防犯ブザーなどの定期検査。  
スクールガード（安全ボランティア）の組織。情報共有のしくみ化。

④犯罪・トラブルからの安全確保

スクールガード（安全ボランティア）の組織。情報共有のしくみ化。  
連絡体制・位置情報共有化のしくみ化。  
防犯カメラの設置などが可能か行政・警察に相談。また、そのカメラ情報を学校・家庭でリアルタイムで見られるものなのか相談。

⑤集団管理による安全確保

児童の役割明確化。  
通学路での課題を共有するしくみづくりと対策・指導組織の決定。  
学校・家庭教育による安全指導。  
スクールガード（安全ボランティア）の組織。情報共有のしくみ化。

確認事項

- ・みんなで見守る。（学校・保護者・学校運営協議会・長寿会）
- ・無理をしない。（回数・保護者の関わり方）
- ・長続きする方法を考える。

② 臨時学校運営協議会・幹部役員会 8月27日(土)  
参加者：学校運営協議会委員・PTA会長他幹部役員・校長・教頭

事前会議においてPTA会長より提案されたものに加え、幹部役員の意見も合わせて協議した。

この協議を受けて、9月に開催される拡大学校運営協議会（学校運営協議会・全保護者・全教職員より組織）の提案が決まった。



幹部役員意見

- ・各家庭に安全チョッキを配布して近所の方々に意識してもらおう＝チョッキを着て見守り隊に参加してくれる地域の方を聞いて参加してくれる方のみチョッキを配り見守ってもらおう。
- ・登校班の班長に携帯を持たせる。
- ・危ない箇所に看板を付ける。スクールゾーンなど目立つように。
- ・個人的には、バス通学を再開する案が良いように思う。
- ・団体行動を身につけるためにも登校班が必要で、徒歩で登校するのが望ましいと思う。よって、交通事故、害獣からの安全確保を考えると見守り隊が必要だと思う。見守り隊のグッズをそろえたらよい。

③ 第2回拡大学校運営協議会 9月16日(金)



事前に行った協議を受けて、以下の「登校時の見守り活動システムの構築(実施案)」をもとに拡大学校運営協議会で、見守り隊の本格スタートに向けての話し合いを行った。

この提案に修正を加えて、10月7日(金)より見守り活動が開始されることとなった。それに伴い、PTA 保体育成部と教職員は新たな当番表を作成した。

### 登校時の見守り活動システムの構築(実施案)

**実施目的:** ①南大嶺駅方面からの登校班の安全を確保する。

: ②多方面からの登校班に、動員・運用面で充分転用できるようなものをめざす。  
(負担減)

: ③県と城原小学校の基本方針に沿い、実践できるものをめざす。

: ④オール城原での取り組みをめざす。

#### 組織

企画部(学校運営協議会、PTA 会長)+推進部(学校安心安全部)

○運用の組織(課題チェックの場)

学校安心・安全部(部長:藤本、PTA:山田(保体育成部長)、教職員:折田)

+ {加藤(学校運営協議会)、松田(PTA 会長)+管理職2名} ←仕組み化された段階で外れます。

+α ←初年度はある程度フレキシブルに対応していく。

○見守り隊の協力メンバー \* ( ) 括弧内は目安の人数

学校運営協議会(8)、PTA(16)、教員(8)、長寿会(30)、オールウエスト(30)

将来的には、近隣の事業所にも協力を依頼していく。

#### 場所(区間)

南大嶺駅~城原小学校の特に無人区間

トンネルを中心とした前後が目安?(トンネル前後の通過はおよそ7:30頃です。)

7:15~7:45の中の出られる範囲での見守りをお願いします。

#### 割り当て:一日1~2名

: 下記割り当て日程に、各団体より1~2名ずつ担当をお願いします。

月・・・PTA

火・・・長寿会

水・・・学校運営協議会

木・・・長寿会     オールウエスト

金・・・教員

#### 安全ベストの購入について

県の補助金を使用して、メッシュ・ベストタイプの購入。前後に名前を入れる。数を確保する必要が生じる場合、PTA 役員会にて予算確保の協議を行う。

(2) 見守り活動の実際、児童の反応



見守り活動の様子

月・PTA 火・長寿会 水・学運協  
木・長寿会、地域有志 金・教員

児童の声

・いつも見守ってくださってありがとうございます。おかげで安心して登校できます。楽しい話をしてもらえるので、とてもうれしいです。これから寒くなりますが、どうぞよろしくお願ひします。

・いつも登校の時見守ってくださってありがとうございます。いつも楽しく歩いてうれしいです。みなさんのおかげで安全に学校へ行けます。これからもわたしたちのことを見守ってください。



山口県PTA連合会PTA活動支援助成金で購入した見守り隊ジャンパー

※マークは児童考案

このジャンパーは最終的には、PTA予算からの支出も加え、拡大学校運営協議会の全メンバーに配付され、見守り活動だけでなく、いろいろな学校行事において着用することとなった。



持久走記録会での見守り活動



城原わくわく祭り



地域を巻き込んだ防災訓練

(3) 登校班についての話し合い（祖父ヶ瀬方面保護者）

本校児童の21人のうち8人が祖父ヶ瀬方面（JR南大嶺駅）から登校している。距離が長い上に、害獣被害、防護柵の設置されていないトンネル内の歩道等の問題がある。

7月中旬の熊の出没を受けて、9月、1月の2回、関係保護者が登校方法について協議した。

見守り隊の人数が、まだ十分に確保されていないこともあり、今年度は、保護者による送迎を続けることとなった。

来年度以降については、3月初旬に再度協議し、決めることになっている。

全校体制での協力が必要となってくるので、1月の参観日に臨時全校保護者会を開催して全保護者に登校方法の確認と見守り隊の強化について投げかけた。



祖父ヶ瀬方面通学路



祖父ヶ瀬方面保護者による話し合い



臨時全校保護者会

臨時全校保護者会の進め方について（一般保護者用）

1日 時

- ・平成29年1月24日（火）引渡訓練終了後から～30分程度？

2場 所

- ・ランチルーム

3目 的

※あくまで保護者主体の会（学校はオブザーバー）

来年度全校区内に広げる見守り活動開始に向 P としての取組を具体的に考える。

(1) 目的の承認

- ・見守り活動を全校区内に広げることで話を進めてよいか。

(2) 現状と課題

- |              |                                   |
|--------------|-----------------------------------|
| ①望ましい登校方法    | →登校班での登校                          |
| ②見守り一部地区のみ実施 | →本来は城原小校区内すべてにあるべき。               |
| ③祖父ヶ瀬方面協議結果  | →徒歩登校への不安<br>(野生動物・トラブル・見守りなしの現状) |

→課題 見守り人員不足

(3) 課題解決に向けて

4月以降見守り活動を広げるためには、人員確保が必須

①どのように確保するか？

- ・保護者が協力
- ・身近な人、知り合いで動ける人が協力  
→[2 / 1 4 (火) 幹部役員会までに学校へ連絡を！]
- ・知り合いで動ける人が協力

②人員確保に際しての注意点

- ・保護者は仕事で動けないのは当然。(できる協力でよい。)
- ・身近な人材をお互いに紹介することでより安心・安全な見守りに。

③見守り隊への留意事項

- ・見守り隊はあくまで、見守るのみ。(責任は保護者にある)
- ・全行程をついて歩くことは難しい。(ポイントで立っての見守り)
- ・場合によってはつけない時もある。

## 5 成果と課題

### (成果)

- ・児童の登下校中の危険性を分類して、それぞれの特徴や危険性についてあらためて全体で確認することができた。
- ・学校、PTA、運営協議会を巻き込み、「今からできる活動」として登校中の見守り活動を学校、PTA、地域一体となった活動としてスタートすることができた。
- ・見守り活動によって、児童と地域、学校と地域、PTA と地域のつながりが強化され、同時に学校行事への関心も高くなってきている。

### (課題)

- ・全校保護者会でも協議されたが、見守り隊の人員確保が大きな課題である。これについては、保護者が「自分たちのできること」として、他人任せにするのではなく、「自分たちが直接願う」という形で進めていくことになった。保護者間に温度差はあるが、協議を重ねて進めていく必要がある。
- ・持続可能な活動とするために、PTA の組織をさらに強化する。人が変わっても組織が残るよう、来年度は体制を見直したい。
- ・通学路は非常に危険な場所もあるので、行政とも連携し、道路の整備、看板・防護柵の設置などを進めていく。

